



東京の夜景美

東京デイズニerlandをはじめ高層マンション、ホテルが林立する千葉県浦安市や江戸川区葛西は1950年代後半までは浅草海苔の名産地であった。私は当時、信州の寒村に暮らし冬場の三年間は出稼ぎで海苔運びをしたものである。その頃、漁村は茅葺き屋根が軒を連ね、江戸時代を彷彿とさせる風情があった。その街並みが現存していたら恐らく伝統的建造物群保存地区に指定されていたであろう。そんな光景も1960年（昭和35年）を境に一変する。高度経済成長期に入り、首都圏を含めた巨大開発によって京浜・京葉工業地帯が発展をつづけ、東京の人口も1270万人を超える大都市となって今日に至る。東京湾臨海開発に伴い、きらびやかなドリームランドの誕生を見る。写真のお台場も海浜都市の様相を呈し、高層マンション、高層ホテル、テレビ局等が建ち並び、幻想的な光景が、運河に反映し、夕闇の中に浮かび上がる。夜景美は光を集約し目に眩しいばかりだ。

（写真・文 樋口健二）